

ミイラになるなよ、明智君。

登場人物

江戸川乱歩

横溝正史

明智小五郎

変態侯爵

謎の女

RAMPO

黛バージョン

製作：奥山和由
原作：江戸川乱歩

美術：西岡善信 / 撮影：森田富士郎 / 監督：黛りんたろう
本木雅弘・羽田美智子・香川照之・平幹二朗・竹中直人
松竹株式会社 松竹富士株式会社 共同配給

◆解説

あれほど特殊で不可思議な世界を描きながら、少年から老人まで、莫大な読者を獲得しつづけてきた江戸川乱歩。繰り返し全集が刊行され、文庫化され、少年文庫にもなり、劇化され、映像化される。60年間以上に及ぶ異常に水、ブームが何度かのピークを経て続いていた。そしてまた新たな「乱歩ブーム」の到来を予感させられるように、今回の映画化である。それもまた「作品を映像化する」のではない。乱歩の世界に乱歩とともに入る。それを観客に体験してもらおうと、乱歩の秘密に迫ろうという企み。それが「RAMPO」だ。

キャストには、映画界で独特の存在感のある竹中直人が、乱歩本人を、乱歩の妄想の産物として乱歩の果たせぬ冒険を行なう絶世の美青年、明智小五郎を本木雅弘が演じる。また、乱歩を創作へいざなっているのやら、猟奇へ誘惑しているのやら、うつつうしくも刺激的で傲岸な若き編集者構溝正史を香川照之が演じるほか、乱歩を夢中にさせてしまう危うい過去を持った美女・静子、そしてまた乱歩の作品世界のなごは、侯爵夫人麗子として登場し、現実と幻の境に生きる女に羽田美智子。そして、平幹二郎が乱歩の創作世界に登場する、倨傲で不遜で知的な変態という異様な軍人貴族を演じる。虚実なイメージ、ときの有名人たちが乱歩の時代を案内する。「お勢登場」「化人幻戯」「火星の運河」といった原作をもとに、江戸川乱歩生誕百周年記念作品として映画化。

監督はNHKドラマスペシャル『うざまきの休日』（放送文化基金大賞）、『ダックスフンドのワープ』、連続テレビ小説『滯っくし』、95年大河ドラマ『花の乱』演出の黛りんたろう。

■キャスト

本木 雅弘
羽田 美智子
香川 照之
佐野 史郎
岸部 一希
樹木 希林
平 幹二郎
竹中 直人



RAMPO



黛バージョン

◆ストーリー

昭和初期の東京。小説『お勢登場』を前に著者・江戸川乱歩と発行人・横溝正史は、検閲官から発行禁止を告げられる。そんな折、根津界隈の骨董屋で、未発表の小説と奇妙なほど符号する事件が起きる。新聞の見出しには「事故か殺しか？亭主長持ちで変死」。夫殺しの嫌疑をかけられたのは、妖しくも美しいその妻・静子。法事の様子を双眼鏡で覗く横溝と乱歩だが、喪服姿で悲しみに湛える静子をひと目みるなり心魅かれていくのは乱歩だった。

暫くして横溝が再びみつめてきたのは、古新聞記事。『両親心中の女兒・屋根裏で発見さる……根津のアパート』。惨劇の十日後、半死半生で保護。危うい幼児体験さえも持つ静子であった。暗い土蔵の仕事場で原稿用紙に向かう乱歩。いつしか静子は乱歩の作品世界で、大河原侯爵夫人・麗子となつて描かれていく。異様な侯爵と麗子のミステリアスな関係。自らの分身ともいえる探偵・明智小五郎を登場させ、特異な創造力で虚と実の世界を彷徨する乱歩。そこへ、現実の静子から電報が届く。骨董屋にかけつける。と、事件のあつた長持ちの横で震えている彼女。手が乱歩の身体にすがってくる。しかし、素直に受けとめられない。乱歩の愛の彷徨はまたしても作品世界と共に展開されていくのだった……。

■スタッフ

製作：奥山和由
原作：江戸川乱歩
「お勢登場」「化人幻戯」「火星の運河」より
脚本：奥山和由
榎 祐平
黛りんたろう
プロデューサー：西岡 善信
撮影：森田富士郎
音楽：川崎真弘
衣裳デザイナー：伊藤佐智子
監督：黛りんたろう

今夏ロードショー!

●特別鑑賞券、絶賛発売中!
一般1,400円/学生1,200円
(当日一般1,800円/大高1,500円/中学生1,300円のところ)

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備	東口・紀伊國屋ビルうら	関内駅北口・横浜ピカデリー前
東	劇	新宿ピカデリー-2
03(3541)2711	03(3352)4043	045(261)1007
連日 11:00 1:00 3:00 5:00 7:00	連日 11:00 1:00 3:00 5:00 7:00	連日 11:00 12:55 2:50 4:45 6:40